

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

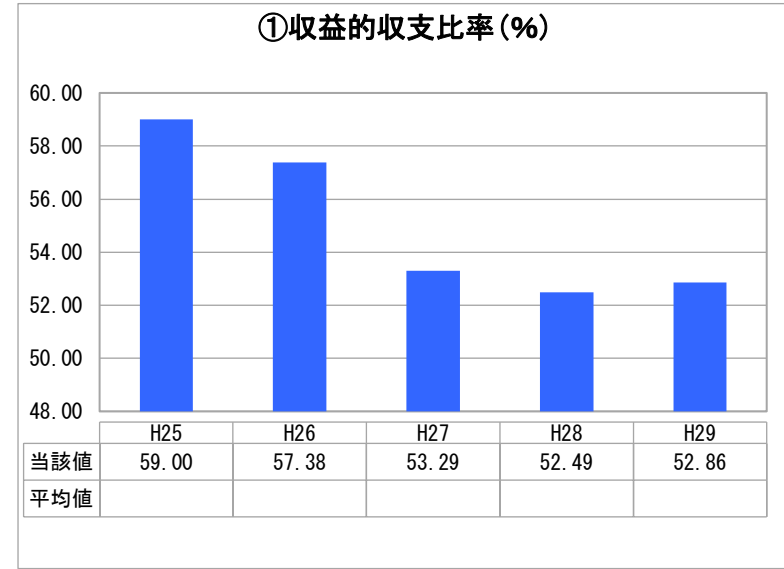
福井県 若狭町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	53.96	100.00	3,780

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
15,234	178.49	85.35
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,133	3.36	2,420.54

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



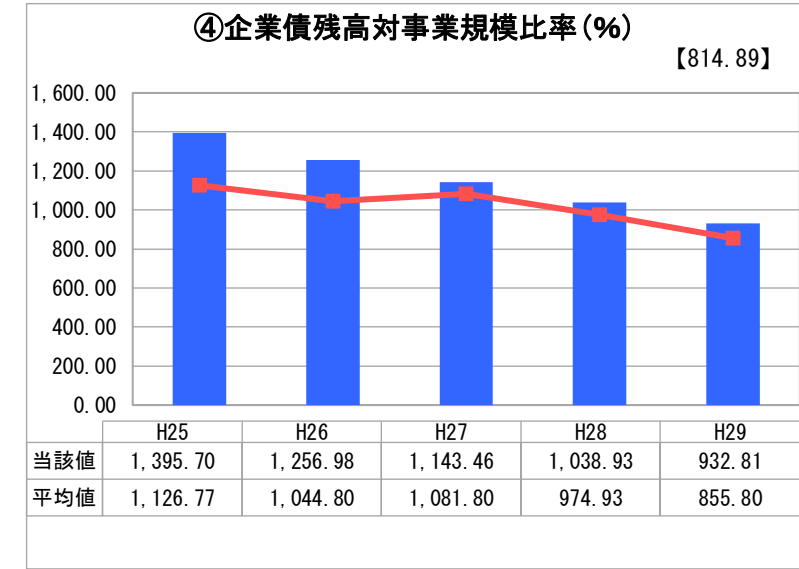
「単年度の収支」



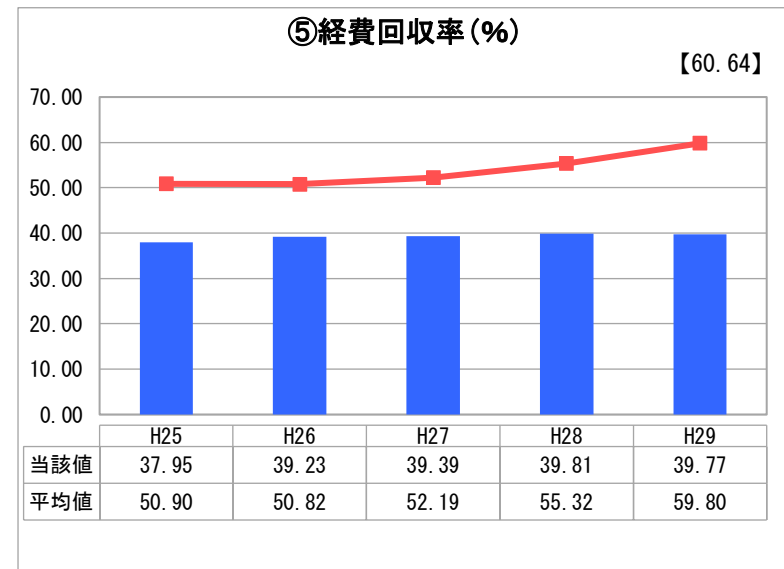
「累積欠損」



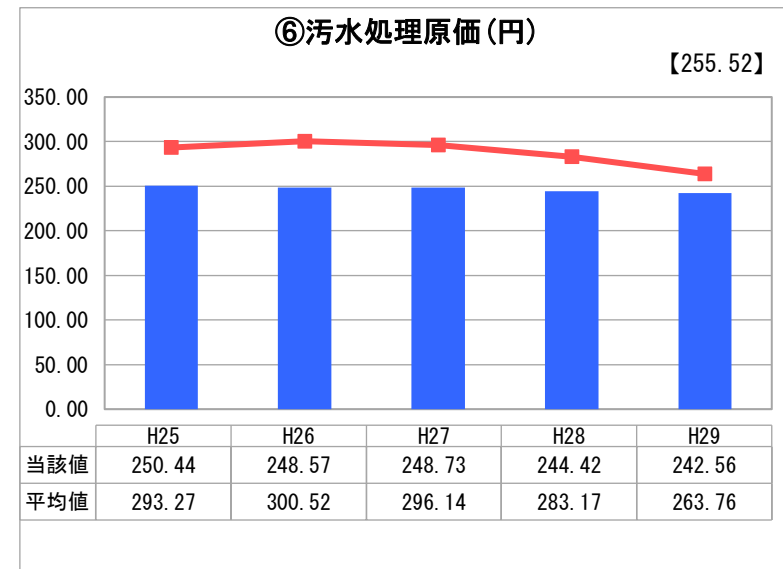
「支払能力」



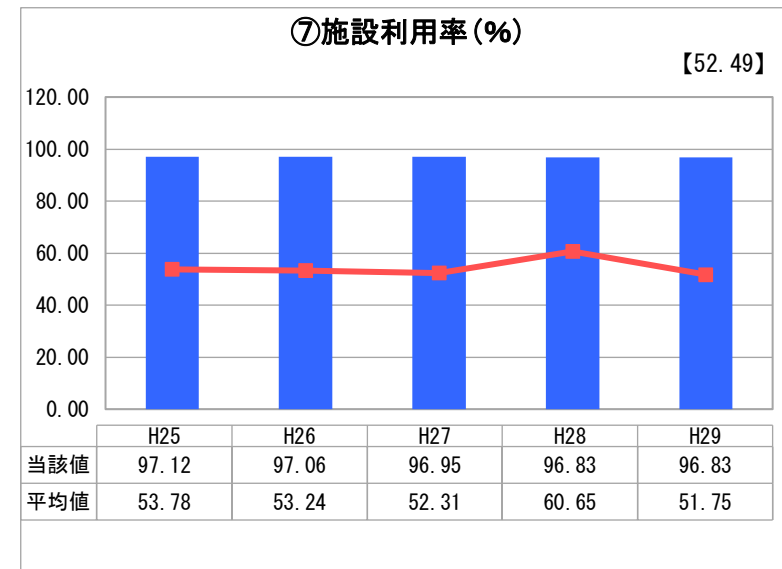
「債務残高」



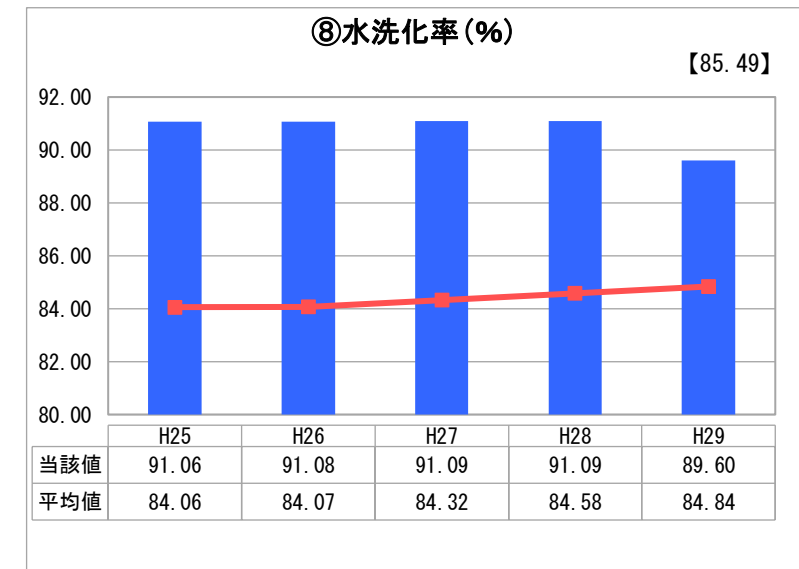
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

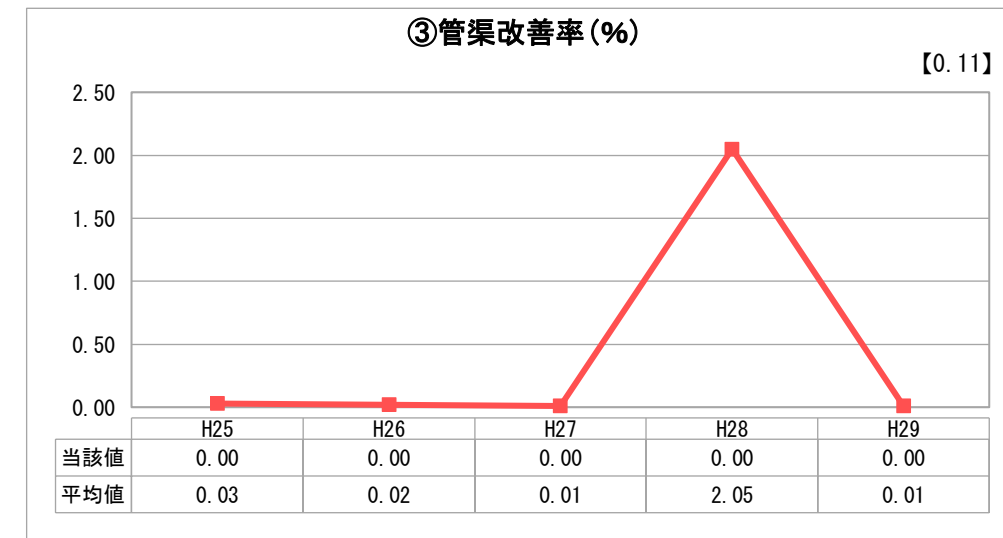
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、100%を大きく割り込んでいる。地方債元利償還金を一般会計繰入金に依存していることが要因である。施設の整備はほぼ終了しており、水洗化率も類似団体平均値より高く約90%に達している中で、比率を上げるには、維持管理経費の削減と料金改定が必要である。

④企業債残高対事業規模比率が類似団体平均値より高い状況にあるが、農業集落排水処理事業の整備は完了しており、現在、企業債の新規借入れの予定はなく、元利償還額のピークも過ぎたため、今後は、類似団体平均値に近づいていくと考える。

⑤経費回収率は、類似団体平均値と比べ下回っている。横ばいの状態が続いているため、今後は経営効率の改善と健全運営を見据えた料金改定が強く求められる。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均値と比べ下回っているが、横ばいの状態が続いているため、今後さらなる経費の削減に努める。

⑦施設利用率、⑧水洗化率は、類似団体と比較し共に高い数値となっているため、残りの余地は少ないが、さらなる向上を図りたい。

### 2. 老朽化の状況について

当町の農業集落排水は9地区に分かれており、施設の供用開始年度が平成5年度から平成11年度となっている。

最も年数が経過した管渠で28年経過している。耐用年数を経過した管渠は無いため更新は行っていない。

今後は、最適整備構想に基づき、管渠及び処理場の更新を実施していく必要がある。

### 全体総括

当町は現在、農業集落排水の整備は完了しており、水洗化率も高く、使用料収入は、居住人口の減と共に今後少なくなっていくことが想定される。反対に、施設の維持管理費は老朽化と共に年々増大していくことが想定され、事業を取り巻く環境は厳しさを増していく。今後は施設の統廃合により維持管理費の大幅な削減、施設の更新等の将来を見据えた経営戦略の策定が必要となる。

上記のことを踏まえ、平成30年度より経営戦略策定を開始し、平成31年度にかけて施設の統廃合、使用料の改定を検討していく。また、併せて農業集落排水事業会計の公営企業化にも取り組み、事業経営の健全化を進めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。